

1 題材について

| | |
|-------------|--|
| 対 象 学 年 | 小学校 第4学年 |
| 学 習 指 導 要 領 | 第3学年及び第4学年 A表現(2)ア(3)ア(4)イ B鑑賞(1)ア |
| 題 材 名 | 様子を思いうかべて（全9時間） 【教材名】 表現教材：「もみじ」「おどろう楽しいポーレチケ」「つるのおん返し」 鑑賞教材：「まほう使いの弟子」 |
| 題 材 目 標 | 拍子の違いや旋律の特徴、楽曲の気分や曲想の変化を感じ取って、想像豊かに表現したり聴いたりすることができる。 |
| 配 慮 事 項 | <p>基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫</p> <p>題材指導計画作成上の工夫（教材選択、教材配列、教材の時間配分等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の気分や曲想の変化を感じ取って想像豊かに表現することができるよう、物語の間奏やBGMを工夫して表現する活動を位置付けたり、物語を音楽で表した作品を鑑賞し、表現との関連を図ったりする。 <p>単位時間における工夫（音楽活動の基礎的な能力を培う指導・援助等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の作品への思いや表現への願いに支えられた作品「つるのおん返し」を創り上げるために、一人一人の感じたことを小グループで十分話し合う。そして、場面毎に朗読役・歌役・副次的な旋律役・間奏役・効果音役などを役割分担して、作品づくりに参加できるようにする。 ・児童が、どんな感じの音や曲想にしたらよいのかを主体的に話し合ったり、いろいろな音の響きやその組合せを楽しんだりすることができるよう、「つるのおん返し」の指揮者、各場面グループのリーダーや聴き役などをあらかじめ決め、その児童を中心として練習を進めていくことができるようにする。 ・日本の昔話「つるのおん返し」がより日本の感じになるよう、篠笛の講師を招き、児童の願いに合わせて作品づくりに参加していただく。このことにより、児童の自己表現への意欲を高め、日本の音楽に対するイメージを広げる。 |
| 参 考 資 料 | 資料1：第7時の学習課題や児童の曲に対する思い、ふり返りを記入する学習プリント |

2 題材の評価規準

| | ア 音楽への関心・意欲・態度 | イ 音楽的な感受や表現の工夫 | ウ 表現の技能 | エ 鑑賞の能力 |
|----------------|---|--|---|---|
| 歌唱 | | | | |
| 器楽 | | | | |
| 創作 | | | | |
| 鑑賞 | | | | |
| 内容のまとめりごとの評価規準 | <p>【歌唱】 進んで歌唱表現にかかわり、歌唱活動への意欲を高めるとともに、その経験を生活に生かそうとする。</p> <p>【器楽】 進んで器楽表現にかかわり、器楽活動への意欲を高めるとともに、その経験を生活に生かそうとする。</p> <p>【創作】 進んで音楽づくりにかわり、音楽をつくって表現する活動への意欲を高めるとともに、その経験を生活に生かそうとする。</p> <p>【鑑賞】 様々な音楽を進んで聴き、鑑賞活動への意欲を高めるとともに、その経験を生活に生かそうとする。</p> | <p>【歌唱】 斉唱や簡単な合唱などによる歌唱表現及び歌声のよさや美しさを感じ取るとともに、歌詞の内容にふさわしい表現を工夫し、拍の流れやフレーズ、強弱や速度の変化などを感じ取り、それらを生かした歌唱表現の仕方を工夫したり、身体表現をしたりしている。</p> <p>【創作】 様々なリズムや旋律及び音の組合せのおもしろさ、いろいろな声や音の響きの特徴を感じ取るとともに、音楽表現のイメージを広げ、それらを生かした音楽づくりの仕方を工夫している。</p> | <p>【歌唱】 範唱や範奏を聴いたり楽譜を見たりして歌うとともに、八長調の旋律を視唱している。また、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない声で歌っている。</p> <p>【創作】 音の組合せを工夫し、簡単なリズムや旋律をつくって表現するとともに、即興的に音を選んで表現し、いろいろな音の響きやその組合せを楽しむなど、工夫して音楽をつくっている。</p> | <p>【鑑賞】 主な旋律の反復や変化、副次的な旋律、音楽を特徴付けている要素、楽器の音色及び人の声の特徴、それらの音や声の組合せなどに気を付けて聴くとともに、曲想の変化を感じ取って聴く。</p> |
| 題材の評価規準 | <p>歌詞の表す情景や様子を想像し、進んで表現したり聴いたりしようとしている。</p> | <p>歌詞の表す情景や気持ち想像し、歌詞の内容にふさわしい表現の仕方を工夫している。</p> | <p>呼吸や発音の仕方に気を付けて歌ったり、即興的に音を選んで情景や気持ちを表現したりしている。</p> | <p>様子を思い浮かべ、楽曲全体の曲想やその変化を想像しながら聴いている。</p> |
| 単位時間における | <p>秋の美しい様子を思い浮かべて、4分休符の前の音を十分のばしたり、やわらかい声で歌ったりして、意欲的にイメージに合った表現をしている。 (歌唱)</p> | <p>タンタタンのリズムにのって、3拍子の流れを体全体で感じ取って身体表現をしている。(歌唱)</p> | <p>十分に息を吸ったり吐いたりすることに気を付けて、のびのびとした歌声で歌っている。 (歌唱)</p> | <p>2つの物語の様子を思い浮かべながら、曲想を味わって聴く。 (鑑賞)</p> |

| | | | |
|--|--|---|--|
| <p>る 具 体 の 評 価 規 準</p> | <p>物語の様子の変化に関心をもって聴いている。 (鑑賞)</p> <p>より様子にぴったり合う表現にするために、意欲的に場面に合った楽器の音色を選んで活動している。 (創作)</p> <p>篠笛の奏法をまねたり、篠笛のふしを入れたりしたことに表現の高まりを感じ、篠笛の演奏に出会えたことを喜んでいる。 (器楽)</p> | <p>雪が降っている様子やつるの様子イメージに合う、リコーダーの音色や効果音になるよう、楽器の奏法を工夫して表現している。(創作)</p> | <p>4番のイメージを生かしたテンポで表現したり3フレーズ目の発音を大切に歌ったりしている。(歌唱)</p> <p>場面に合う音色や間奏の入れ方など、効果的な構成を考えて、楽しんで表現している。 (創作)</p> |
|--|--|---|--|

3 指導の評価と計画（全9時間）

| 時 | 教材 | ねらい | 学 習 活 動 | 評価規準 | 評価方法 | 指導・援助 |
|---|--------------|---|---|---|---|---|
| 1 | もみじ | 「もみじ」の表す様子がわかり、美しい秋の様子に合った歌声やテンポを見つけて歌うことができる。 | 詩を読み、様子について話し合う。 範唱（斉唱）を聴く。 もみじの様子を思い浮かべてその様子に合ったやわらかい声で歌おう。 いろいろなテンポや歌声で歌って比べてみる。 自分たちの思いにぴったりのテンポや歌声をつかむ。 録音を聴いて、授業を振り返る。 | ア - 秋の美しい様子を思い浮かべて、4分休符の前の音を十分にばしたり、やわらかい声で歌ったりして、意欲的にイメージに合った表現をしている。 | 観察 ・歌唱表現時において、声の質や、ほおを上げたり目を大きく開けて遠くを見つめたりするような顔の表情から評価する。 | 四季の美しさが表れている絵などを提示したり、さらに情景に合ったやわらかい声で歌うよう、ほおを上げたり、目を大きく開けたりするよう助言する。 |
| 2 | | もみじが美しく紅葉している様子を表現するためには、第3フレーズを最も強く歌うとよいことに気付き、3フレーズ目の前でたっぷり息を吸い、「まつをいろどる～」で息を吐ききって歌うことができる。 | 二部合唱の範唱を聴く。 もみじが赤や黄色に紅葉している様子を表現するために、第3フレーズを1番強く歌えるようにしよう。 副次的な旋律を練習する。 第3フレーズを呼吸に気を付けて合唱する。 | ウ - 十分に息を吸ったり吐いたりすることに気を付けて、のびのびとした歌声で歌っている。 | 観察 ・歌唱練習において、第3フレーズの直前でたっぷり息を吸っている様子を観察したり、児童の近くを回って歌声を聴いたりして評価する。 | 第3フレーズの前でたっぷり呼吸し、十分に息を吐きながら歌っていることを価値付ける。 |
| 3 | おどろう楽しいポーレチケ | 楽しくおどる様子を思い浮かべ、3拍子の拍の流れにのって歌ったり、身体表現を工夫したりすることができる。 | 3拍子の曲の感じに合わせて楽しく体を動かしながら歌おう。 いろいろなおどりのリズムを手拍子しながら聴く。 歌詞を読み、1番から4番までの様子をつかむ。 身体表現しながら、歌う。 | イ - タンタタタンのリズムにのって、3拍子の流れを体全体で感じ取って身体表現をしている。 | 観察 ・歌唱練習において、楽しそうに3拍子のリズムに合わせて体を動かしたり、ほおを上げて楽しそうな表情をしたりして歌唱表現している様子から評価する。 | 指揮をしながら聴き、体全体で曲の感じを表現している児童を見本として示す。 |

| | | | | | | |
|---|---------------|---|---|--|---|--|
| 4 | | 4 番の歌詞の内容に注目し、曲想を考えたり、3フレーズ目を部分二部合唱したりすることができる。 | 4 番をゆっくり歌ってみる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">楽しくおどっている様子がよく表れるように、テンポや発音に気を付けて歌おう。</div> 低声部を階名唱する。和音の響きを伸ばして確かめる。 | ウ - 4 番のイメージを生かしたテンポで表現したり 3 フレーズ目の発音を大切に歌ったりしている。 | 観察 ・歌唱をしている児童の近くに行き、歌声や口をはっきり動かしている様子から評価する。 | 語りかけるように歌ったり、口をはっきり動かして発音したりすることを、繰り返し練習する。 |
| 5 | まつほるうの使おいの返弟子 | イ音を基音とした旋律で効果的に日本の昔話が表現されていることを感じ取ることができる。 | 2 曲を聴き比べ、それぞれの特徴をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">どんな様子を表しているか思い浮かべながら音楽を聴こう。</div> 「つるのおん返し」の 1～3 番の詩に合った曲想を工夫する。 | ア - 物語の様子の変化に関心をもって聴いている。 エ - 2 つの物語の様子を思い浮かべながら、曲想を味わって聴く。 | 観察 ・楽しい感じや悲しい感じの違いを聴いている時の身体表現の様子から評価する。 学習カード ・2 曲の感想コーナーの物語の音楽の特徴をつかんでいる記述内容から評価する。 | 物語の様子を豊かに想像している児童の感想を交流する。 それぞれの音楽の特徴をつかんだり様子を思い浮かべたりしていることを価値付けるとともに、他の児童の記述を紹介する。 |
| 6 | つるのおん返し | 副次的な旋律や間奏を知り、物語の場面に合った音楽にするために意欲的に方法を考えたり、意欲的に楽器や音色を選んだりすることができる。 | 副次的な旋律や間奏を階名唱する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">様子が伝わるような演奏をつくろう。</div> リコーダーで練習する。 場面の様子に合う楽器や音色を見付ける。 | ア - より様子にぴったり合う表現にするために、意欲的に場面に合った楽器の音色を選んで活動している。 | 観察 ・楽器の音色に関心をもち、たたき方などにこだわって楽器選びをしている様子から評価する。 学習カードの記述 ・「こんな様子を表すために、こんな音はこの部分に入れたい」に記入されている思いから評価する。 | 奏法によっても、音色が変わることに気付くように、教師が範奏する。 |

雪が降っている様子やつるの様子やつるの様子イメージに合うリコーダーの音色や効果音になるよう、楽器の持ち方や吹く強さなどの奏法を工夫して表現することができる。

雪が降っている様子やつるの様子など、場面の様子が伝わってくるようなリコーダーの吹き方や様子を表す音の出し方を工夫しよう。
3つのグループに分かれて音楽づくりの分担をする。
語り出し + 1番
1・2番の間奏 + 2番
2・3番の間奏 + 3番
どんな場所にどんな音色やつくった音楽が必要なのか確認する。

イ -
雪が降っている様子やつるの様子イメージに合う、リコーダーの音色や効果音になるよう、楽器の奏法を工夫して表現している。

観察
・グループを順に回り器楽表現や発言内容から評価する。
学習カード
・「担当場面の様子」「こんな音にしたい」「授業後の振り返り」の記述内容から評価する。

各グループの工夫したことを交流する場を設けて聴き比べをさせ、より様子に合う音にするための方法（楽器の持ち方、マレットの種類やたたき方、息の強さなど）を考えるよう助言する。

雪が降っている様子やつるの様子など、自分の表現したい場面のイメージに合う音を入れる場所や間奏の入れ方など、曲の構成をとらえて、表現することができる。

担当した場面に合った音の入れ方を見つけ、演奏しよう。
表現を工夫して、練習する。
語り出しの朗読の部分のつくった音の入れ方
間奏や2番の部分のつくった音楽の入れ方。
間奏や3番の部分のつくった音楽の入れ方。

ウ -
場面に合う音色や間奏の入れ方など、効果的な構成を考えて、楽しんで表現している。

観察
・グループを順に回って、器楽表現や発言内容から評価する。
学習カード
・自己評価の部分や振り返りに記入されている記述から評価する。

場面の様子が確認できるよう、「どんな様子をどのように表現したいのか。」と問いかけ、一緒に音色を確かめながら表現する。

民話「つるのおん返し」の表現をより豊かにするために、こんな様子のふしをこの部分に入れたいという願いをもち、その願いに合った即興的なふしを篠笛の先生に加えていただいたり、篠笛の奏法をリコーダーに取り入れたりする活動を通

より日本のお話の感じになるように、篠笛の先生とともに「つるのおん返し」を演奏しよう。
篠笛の先生の生演奏を聴いて、特徴を確認する。
グループ毎の考えを先生に伝え、練習する。
まとめの演奏をする。

ア -
篠笛の奏法をまねたり、篠笛のふしを入れたりしたことに表現の高まりを感じ、篠笛の演奏に出会えたことを喜んでいる。

観察
・グループを順に回って、器楽表現や発言内容から評価する。
・篠笛の先生を観察する表情から評価する。
学習カード
・自己評価の部分や「学習を終えて」に記入され

篠笛の先生の奏法から、タンギングや息の入れ方、体の動かし方などをよく観察するよう助言したり、教師がリコーダーで範奏したりする。

| | | | | | | |
|--|--|----------------------|--|--|----------------|--|
| | | して、篠笛との演奏を味わうことができる。 | | | ている記述内容から評価する。 | |
|--|--|----------------------|--|--|----------------|--|

4 単位時間の授業展開例

(1) 本時のねらい

雪が降っている様子やつるの様子のイメージに合うリコーダーの音色や効果音になるよう、楽器の持ち方や吹く強さなどの奏法を工夫して表現することができる。

(2) 本時の位置 7 / 9時

(3) 展開案

| 過程 | 学 習 活 動 | 評価について | 指導・援助 |
|------------------|--|---|--|
| つ か む | 1 「つるのおん返し」を通して歌う。 2 範唱を聴き、本時の課題をつかむ。 | | 様子に合った歌い方ができるよう、前時の学習の足跡を楽譜などに残して黒板に提示する。 |
| | 雪が降っている様子やつるの様子など、場面の様子が伝わってくるようなリコーダーの吹き方や様子を表す音の出し方を工夫しよう。 | | |
| / | 3 3つのグループに分かれる。 語り出し + 1番 ・雪が降っている様子、つるがわなにかかっている様子 1・2番の間奏 + 2番 ・戸をたたく音、はたを織る音 2・3番の間奏 + 3番 ・弱々しくはたを織る音 ・リーダーを中心に、前時にみんなで考えた楽器を用いて演奏してみ、奏法や音色について話し合う。 | | 打楽器は、マレットの種類でも音色が変わることを思い出させる。 はたを織る音は、2番と3番とでは違うことを気付かせる。 |
| 高 | 4 3つのグループの練習したことを発表し、自分たちのイメージに近づくための工夫を交流する。 | イ - 雪が降っている様子やつるの様子のイメージに合う、リコーダーの音色や効果音になるよう、楽器の奏法を工夫して表現している。 | 各グループの工夫したことを交流する場を設けて聴き比べをさせ、より様子に合う音にするための方法（楽器の持ち方、マレットの種類やたたき方息の強さなど）を考えるよう助言する。 |
| め | 5 グループ毎にリコーダーの吹き方を工夫する。 ・間奏や副次的旋律をリコーダーでやわらかい音色でなめらかに演奏できるように練習する。 | 観察 ・グループを順に回り器楽表現や発言内容から評価する。 学習カード ・「担当場面の様子」 「こんな音にしたい」 「授業後の振り返り」の記述内容から評価する。 | リコーダーでは、トォーとォーと柔らかいタンギングをするよう範奏しながら助言する。 リコーダーの吹き方を工夫したことによって、様子に合った感じになったことを価値付ける。 |
| る | | | |
| / | 6 指揮者、聴き役を決めてまとめの演奏をする。 ・一人一人振り返りを記録し、次時のめあてをもつ。 | | |
| ま と め る | | | |

5 評価の実際と個に応じた指導事例

(1) 本時重点的に取り上げた評価規準

評価規準<イ - >

雪が降っている様子やつるの様子のイメージに合う、リコーダーの音色や効果音になるよう、楽器の奏法を工夫して表現している。

(2) 評価の実態

—— 評価の方法 ——

観察による方法

- ・グループを順に回り、器楽表現や発言内容から評価した。

—— 判断の事例 ——

Cと判断

- ・ウッドブロックを床に置いてたたいていた姿勢や、楽器の音色の違いに無関心な児童をCとした。
- ・リコーダーのふしを正しいタンギングをしないで、一音一音、息を吹きこんで演奏していた児童をCとした。

Aと判断

- ・戸をたたく音や開ける音を表現するために、マレットの種類を変えたり、持つ位置や接触面を工夫したりするなど、よりよい音を見付けるまで、こだわって取り組んでいた児童をAとした。
- ・リコーダーのふしの、やさしくなめらかな感じを出すために、吹き込む息の量を加減したり、柔らかいタンギングで演奏したり、体を使って最後までていねいにのぼしたりしていた児童をAとした。

(3) 個に応じた指導の実際 (Cと判断される状況への働きかけ)

ウッドブロックを床に置いて、しゃがみこんでたたいていた児童

立ってたたけるように机を用意し、音色が変わったかどうかと問いかけた。そして、音色を感じ取って練習するように助言した。その後、楽器を持ち上げてたたいてみたら、すごく響きが変わったことに気づき、本時の交流会のときには、指先で持つような感じで楽器を持ち上げてたたいていた。

交流会での発表後、全員で「床 机上 手にぎる 指先で軽く持つ」という順で音色の違いを聴き比べることにより、工夫できたことを価値付けた。

リコーダーのふしを一音一音、息を吹きこんで演奏していた児童

どのような感じに吹きたいのかを確かめると、なめらかに吹きたいと答えた。そこで、なめらかに範奏し、自分の演奏と聴き比べさせた。児童は、自分の演奏がなめらかでないことに気付くことができた。

その後、タンギングなしで指だけを動かして吹く練習をするとよいことを助言して練習させた。この活動をすることによって、息をしっかりと吸って、吹き続けないとなめらかに吹けないことに気付くことができた。

| | | | |
|---|--|---|--|
| 活動目標 音楽とお話で 楽しもう | 教材 つるのおん返し | 組 | 氏名 |
| 時 | (全体) 学習すること できるようにすること | (個人) やってみたいこと できるようにしたいこと | 今日の自分の様子・うれしかったこと・なやみ・次時にやってみたいことなど |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・より様子を表すような音にするために、グループみんなできき合って、よりよい音にするための音の出し方を工夫することができる。 ・場面の様子に合うようなリコーダーの音色にするために、間奏や副せんりつの吹き方を工夫することができる。 | <p style="text-align: center;">課題</p> <p>雪が降っている様子やつるの様子など、場面の様子が伝わってくるようなリコーダーの吹き方や様子を表す音の出し方を工夫しよう。</p> | <p style="text-align: center;"><課題のふりかえり></p> <p>様子を表す音の出し方を考えるために音をきき比べることができた。 ()</p> <p>リコーダーの吹き方を工夫できた。 ()</p> |
| <p>《こんな様子を表すために、こんな音をこんなふうに入れたい》</p> <p>自分のグループの場面 () : 語り出し + 1番 () : 間奏 + 2番 () : 間奏 + 3番</p> <p>担当場面のイメージ <u>こんな音にしたい</u></p> <div style="border: 1px dashed black; height: 60px; margin-top: 10px;"></div> | | | |
| 使用楽器 | 表す様子 | くふうしたこと | |
| リコーダー (間奏・副せんりつ) | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |